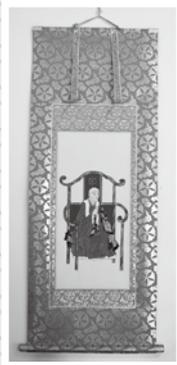


良忍上人と思われる
僧形像

法明上人絵像



良忍上人絵像

本尊の
阿弥陀如来立像堂内に祀られる
仏像と祖像

大念寺 (西大塚1丁目)

融通念佛宗、丹南来迎寺の末寺
阿弥陀如来像、良忍・法明上人像

府立大塚高校が建つ今池の北側に、近年まで小治ヶ池が水をたたえていました。池は埋め立てられ、新しく住宅地となっていますが、旧東堤沿いに融通念佛宗の大念寺(西大塚一丁目)が法灯を続けています。平成の前半までは、本堂・山門・庫裏が建っていました。大正十一年(一九二二)に発刊された『大阪府全志』には、境内は九十五坪とあります。現在、東向きに建てられていた旧来の建物は壊され、一棟の御堂に建て替えられました。

融通念佛宗は、平安時代後半、良忍によって開かれ、大念佛寺(大阪市平野区)を根本道場と定めました。一時、融通念佛の教えは衰えますが、鎌倉時代に法明(大念佛寺七世)が出て再興されました。のち、同寺が総本山となります。摂津をはじめ、河内や大和を中心に広がり、江戸時代の早いころから、丹北郡西大塚村に建てられていたのが大念寺でした。

江戸時代、今の丹南三丁目に所在する来迎寺は、融通念佛宗の中でも格式が高く、中本山として、河内国丹南・丹北・八上郡、および摂津国南部などにある四十五か寺を末寺としてまとめていました。その一つが、大念寺です。

寛文六年(二六六)十月八日に書かれた「河州丹南郡丹南村来迎寺末寺御改帳」が残されています。そこには、江戸時代前半ごろの来迎寺の末寺が見られます。大念寺の項では、大塚村とあり、住職と思われる慈春、檀家総代と思われる左衛門の名が並記されています。大念寺は、今も西大塚地区に数軒の檀家を持ち、来迎寺が兼務、お勤めされています。

私は昭和四十年代半ばから、『松原市史』編さんの調査で、旧建物が残る大念寺を訪れていました。当時の景観からは一変しましたが、この度、久し振りに御堂に入れていただきました。

堂内中央に本尊である江戸時代の来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像が祀られています。光背を備え、体部は金泥で彩色されていました。両足にほぞ木をはめ込み、蓮華座上に立っています。年代などの墨書銘は見られませんでした。

阿弥陀如来立像の向かって右側には開祖・良忍上人絵像が掛けられ、左側には中祖・法明上人絵像が掛けられています。良忍上人絵像は曲泉とよぶ椅子に座り、右手に筆を、左手に念佛勧進帳を持つ通例のお姿です。法明上人絵像もやはり曲泉に座り、両手を合掌する通例のお姿です。ただし、私が昭和四十年代に調べさせていただいた時は、この両上人絵像はなく、その後、新たに大念佛寺

より下されたものです。各地の融通念佛宗寺院にも、同様の祖像が祀られています。

法明上人絵像の前に、僧形坐像も安置されています。形態から見て、良忍上人坐像と考えられます。赤色の衣をまとい、持物は失なわれていますが、膝上の右手に筆、左手に念佛勧進帳を持っていたと思われる痕跡が見られます。結跏趺坐する姿です。もととは、畳座の上で祀られていたと思われます。頭部を押し首としており、玉眼を入れています。墨書はありませんが、江戸時代の造立と見られます。来迎寺にも、元禄十四年(一七〇二)に制作された同様の坐像があります。

松原市教育委員会は、平成二十九年から元興寺文化財研究所とともに来迎寺の文化財総合調査を行い、昨年、報告書を刊行しました。その中で、寛政八年(一七九六)、来迎寺に寄進された「大般若経」六〇〇巻も調査され、寄進者の居住地や名前が明らかになりました。

巻五〇一は、西大塚村の村中家内安全を講中で祈願しています。以下、巻五〇二〜五〇一〇までは村内の小森伊左エ門や小森喜右エ門などが供養する者の戒名を記しました。いずれも大念寺の檀家だったのでしよう。

西大塚の有縁の人々は、来迎寺―大念寺を拠として、融通念佛の教えを信仰したのでした。